

# 平成25年度 『四季の郷』 事業報告書

## 1. 生活支援方針・課題について

### (1) 四季の郷の支援目標

以下4点の社会福祉法人昴会の基本理念に沿って、『生き生きとした暮らしの実現』を四季の郷の支援目標に掲げ支援を行ってきた。

○利用者の権利擁護の視点を忘れず、人間としての尊厳を大切にする。

○ノーマライゼーションの理念に則り、「普通の生活」にできる限り近づけるように生活の中に可能な限りの要素を取り入れる。

○利用者個々の能力障害・社会的不利を緩和するために、発達段階に応じた支援を進める。

○信頼的対人関係を作り上げながら、利用者個々の自発性を尊重する。

### (2) 今年度の取り組みについて

昨年度に引き続き、「サービス向上委員会」「危機管理・防災対策委員会」「サービス向上委員会」を毎月開催した。支援の視点の大きな柱となる「人権擁護」や「エンパワメント」、「安全な暮らし」「支援の質の向上」について、定期的な検討や具体的な対策が進められた。

支援体制の面では、夜間支援・介助の必要性の増加からの昨年度の夜勤職員を2名体制から3名体制への変更につき、今年度は、加齢に伴い歩行をはじめとする日常生活全般での動きがゆっくりになってきた利用者グループと比較的若年で動きも活発である利用者グループで大きく2分化してきている様子が見られたため、食事場所や食事介助体制の見直しを機に、2月より職員の勤務シフトの整理・見直し、利用者の入浴時間や夕食時間の見直し等を試行しながら行ってきた。ただし、利用者にとっては今まで長く馴染んできた日課や環境の変更となるため、利用者自治会の場を使うなどしてできるだけ事前に変更内容の説明を行い同意をってもらう取り組みも同時に行ってきた。一連の見直し作業は、次年度からも少しずつ実施していくこととなっている。

更に、強いこだわりや粗暴行為等が見られる重度利用者の短期入所事業や日中一時支援事業（この2事業の事業報告は別紙）利用希望が増加し、入所利用者との関係性や安定した生活環境の維持等への配慮や対応の必要度もかなり増す状況も見られた。居住系施設の社会的な役割を感じつつも、受け入れの難しさもあらためて感じる一年でもあった。

## 2. 生活支援のまとめ

### (1) 施設支援計画

今年度も4月中に利用者・保護者とケース担当者の三者面談を実施してきた。また、10月にも再度利用者・保護者と支援目標についての確認を行い、利用者本位の支援の実施を心掛けてきた。

### (2) 生活支援体制

#### ①<支援職員体制>

今年度もサービス管理責任者を中心に、利用者の支援計画策定や看護師、栄養士を交えたケース会議の実施及びモニタリング・評価、日常的支援の確認を行った。また、支援員の棟別配置を元にして、日常生活支援（ADL支援）には男女別同性介助・援助体制を組み、課業班・クラブ活動支援は、支援員を活動グループ別に配置した体制で支援にあたった。

また、ボランティアの受け入れや保護者会との連携、設備備品の修理、館内外の掃除・美化活動等の間接的支援の面は、職員が分担して取り組んだ。

#### ②<会議>

今年度は、以下の会議を実施してきた。

##### ●全体会議

2ヶ月に1回開催。全職員出席。施設全般の方向性の確認や行政関連内容の報告、支援面への指示等の確認や棟・医務・栄養からの報告・内容確認。

##### ●男女別ケア会議

月 1 回開催。サービス管理責任者・支援員・看護師・栄養士出席。ケース検討などの支援に関わる確認・検討を行った。

●課業班調整会議

月 1 回開催。課業活動担当主任・各課業班リーダー出席。各課業班活動の課題検討、活動調整を行った。

●課業班会議

隔月 1 回開催。課業班担当支援員出席。課業支援の検討を行った。

●給食会議

月 1 回開催。施設長・事務長・副施設長又はサービス管理責任者・看護師・栄養士・厨房職員が出席。食事の設備・内容、利用者への対応等に関する調整等を行った。

●主任者会議

月 1 回開催。サービス管理責任者・主任支援員が出席。支援全般の課題等の具体的な検討・調整、事故・ひやりはつと事例の分析・対応策の検討等を行った。

●サービス向上委員会

月 1 回開催。サービス管理責任者・主任・委員が主席。「職員行動指針」の遵守に向けた取り組みの検討と共に虐待防止委員会機能を担い、利用者の身体抑制措置のモニタリングを行った。

●危機管理・防災対策委員会

月 1 回開催。サービス管理責任者・主任・委員が主席。リスク対策、防災対策に関する取り組みの検討を行った。

●研修委員会

研修月を除き月 1 回開催。サービス管理責任者、主任、委員が主席。研修企画や研修方法に関する取り組みの検討を行った

(4) 健康管理

加齢による心身の機能低下も年々目立ち始めているため、体調の変化の早期発見と状態に応じて適切に判断し対応していくことに努力してきた。また、比較的若い利用者であっても、持病を抱えている利用者も見られるため、日常の状態観察に注意した。特に、会議等での医療・健康面の報告と日常生活の姿・様子の確認、情報の共有化、疾病予防に向けた環境調整面への提案、交代勤務下の医療面の確実な申し送り等に対して重点を置いてきた。

今年度については、特にインフルエンザやノロウイルスが全国的に大流行したが、冬場の地道な対応が功を奏し、四季の郷においては幸いにも流行せずに済んだ。

また、春と秋の年 2 回の一斉健康診断を実施し、異常が発見された利用者については、速やかに精密検査や継続治療を行った。一斉健康診断とは別に、月 2 回、嘱託医による定期受診を実施した。

歯科の予防にも取り組んだ。年 1 回歯科医による歯科検診を実施し、検診結果を踏まえて、歯科を受診して予防的治療を実施した。

(5) 給食管理

今年度も、健康管理に関しては医療・支援側との連絡を密にしつつ、管理栄養士の管理の元で各個人に合った食事提供を行った。

特別食の内容は糖尿病治療食やダイエット食・嚥下食等で食欲不振気味であったり偏食傾向の強い利用者には代替食の提供や調理法の工夫をする事により苦手な食材でも摂取できるように努めた。特に近年は嚥下力が低下しつつある利用者が増え、ペースト食や軟菜食・極刻み食等各個人の嚥下力に合わせた食事の提供が必須であった。

また、栄養ケアマネジメントの導入により栄養士だけではなく他職種との連絡を密にしながらのトータル的な栄養ケアを行った。定期的なスクリーニングや栄養ケア計画の見直しを行う事により、よりきめ細やかな栄養サポートを提供できるようになった。

献立作成時は旬の食材を意識し、食事からも季節を感じてもらえるよう心がけた。

また震災時への対応として、7 日分の非常食と 5 日分の飲料水を確保し、防災倉庫に備蓄してきた。

①食事の量や形態等に関わる対象数（平成 26 年 3 月現在）

盛り付け量	主食	カロリー	男	女	合計
極々小	60g	1450kcal	0	2	2
極小	100g	1550kcal	0	5	5
小	120g	1650kcal	5	18	23
中	150g	1750kcal	5	0	5
大	200g	1950kcal	8	1	9
特大	250g	2150kcal	5	0	5
超特大	300g	2350kcal	1	0	1
合計			24	26	50

種類		男	女	合計
特別食	ダイエット食	0	7	7
	コンニャクライス	0	3	3
	低脂肪牛乳	1	0	1
	糖尿食	1	0	1
	心臓病対応食（塩分制限）	0	2	2
	極刻み食	8	10	18
	刻み食	1	0	1
栄養補助食品	一口大	1	1	2
	嚥下ミキサー食	0	2	2
	微量栄養素補助飲料	1	1	2
	高カロリー食品			

## ②行事食について

行事の際には各行事に合った特別食を提供している。利用者の要望をとり入れ、旬の食材を使った季節感のある献立作成を心掛けた。

行事名	実施月日	メニュー
端午の節句	5月5日	こどもの日ランチ・スープ・エビフライ・コーヒーゼリー
七夕	7月4日	七夕そうめん・澄し汁・フライミックス・ゼリー
土曜の丑	7月22日	うな井・澄し汁・千草和え・スイカ
夏祭り	8月3日	ごはん・豚汁・イカリング・スイカ
秋のお彼岸	9月26日	おはぎ・みそ汁・さんま塩焼き・菜果なます
クリスマス会	12月23日 バイキング	主食：ピザ・バターロール・サンドイッチ 副食：イカリング・ミニドッグ・星のコロッケ・ハートコロッケ・鶏のからあげ・グラタン・春巻・ハンバーグ・ポムポムポテト・スパゲティソース その他：コーンスープ・クリスマスゼリー・シャンメリー おやつ：ショートケーキ・二つの栗のモンブラン・ガナッシュトルテ
正月	1月1日 ～2日	お雑煮・おせち料理（かまぼこ・お煮しめ・数の子・栗金団 黒豆・田作り・伊達巻・なます）
新年会	1月7日	七草粥・餅・鰯の照焼・たくあん・豚汁・みかん
節分	2月6日	太巻き・澄し汁・松風焼き・ゼリー
雛祭り	3月6日	散らし寿司・澄し汁・魚フライタルタルソース・菱餅ゼリー
春のお彼岸	3月20日	牡丹餅・魚の西京焼き・野菜の甘酢漬け・苺・澄し汁
寿司 キャラバン	3月27日	握り寿司（寿司職人によるデモンストレーションあり）

## ③衛生管理について

今年度は、浜松市の学校給食の現場で集団ノロウイルス感染が発生した。今年度だけではなく、近年猛威をふるっているノロウイルス対策として、対応マニュアルの整備・汚物処理ワゴンの導入・職員への研修・

手洗い時のふき取りに使用するペーパータオル導入などを行ってきた。

## (6) 課業班活動支援

### 作業生産・経済活動グループ（創工庵）

#### <活動方針>

- 「作業」を題材としたプログラムの提供を行い、仕事としての意識付けを行っていくこと。
- 社会参加を意識した取り組みを行い、その機会を提供していくこと。
- 利用者の身体状況に応じて適度な歩行機会を設けていくこと。

#### <活動内容>

- 室内作業…割り箸作業（株藤本商会） /利用者 8名
- 室内作業…手袋作業（株ダイセン） /利用者 5名
- 屋外作業…空き缶作業 /利用者 5名
- グループ活動…場所・内容等は別表にて報告

#### <総括>

##### ●割り箸作業

今年度の後半は職員配置数の関係や日課体制の変更等の理由から十分な活動枠が確保できず、月によって作業回数にバラつきが見られた。作業内容としては扱う割り箸の種類が変更したことで、作業方法にも変化があり利用者が新作業に慣れるまで、職員と一緒に作業を行ったり、完成見本を作成して手本としてもらうなど、作業習得に向けて取り組んできた。最初は慣れない様子が見られていたが、現在では以前と変わらないペースで作業に取り組むことが出来ている。

今年度の納品は活動時間確保・作業習熟の関係から概ね3～4ヶ月ペースでの納品となり、例年よりも少なかった。

##### ◆活動実績

活動回数 66回  
活動場所 四季の郷会議室  
作業収益額 6,750円納品回数：3回、単価/0.15円)

(前年度比…活動回数：73回、作業収益額：11,500円、納品回数：5回)

##### ●手袋作業

前年度まで行ってきた包帯作業が納品先の在庫過多から終了となり、5月より新たに（株）ダイセンより手袋作業の委託を受けて作業を行ってきた。

当初は大山ファームと材料を共有して、作業棟で作業を行ってきたが、所属利用者ニーズ・在庫量調整等から、6月より活動場所を大山ファームへ移行して作業を行ってきた。開始当初は初めて行う作業であった為、利用者・職員共に戸惑いながら作業を行っていたが、作業習得に向けて作業プログラムの点検、作業の細分化を図ってきたことで徐々に作業も軌道に乗り、利用者個々にも作業に対して意欲が高まってきた。

##### ◆『手袋作業』活動実績

活動回数 83回  
活動場所 大山ファーム(作業室A)  
作業収益額 19,584円(納品回数：20回、単価/1.5円)

##### ●空き缶作業

年間を通して充実した活動回数の確保が図られてきた。今年度は所属している各利用者の作業プログラムを改めて見直し、『作業の質』の底上げに取り組んできた。プログラムを見直してきたことで、プログラムに沿った作業を行っていない事や、職員毎で作業の進め方に違いがあるなど課題点を洗い出し、改めて対応を統一する事で利用者個々の作業意欲・作業ペースの向上に繋がった。

作業後は近隣へ散歩に出掛けることで、気分転換・健康維持に努めてきた。日課体制の変更に伴い、十分な作業時間の確保が困難となってきた為、散歩コースを短縮して作業を従来通り行える様に作業時間の確保を行っている。

◆『空き缶作業』活動実績

活動回数 169回

活動場所 四季の郷・空き缶倉庫前、白山神社、雨天：ドライブ活動

作業収益金 25,089円

(前年度比…活動回数：185回、作業収益金：18,821円)

●グループ活動

活動内容について以下の通り。

実施日	活動場所	参加人数		経費
		利用者	職員	
8/27	愛知県民の森	5	2	3,743円
12/10	うなぎパイ工場/ウォット	4	2	9,832円
		合計2回		経費合計：13,575円

軽作業・健康活動グループ（呼称：あんだんて）

<活動方針>

○作業活動に取り組みながらも、身体・運動機能の低下予防（健康保持）に必要性・ニーズが高まっている。その為、今年度は以下のような活動方針を立てていく。

○作業活動を通して活動・参加意欲を高めること。

○利用者個々のニーズや身体状況に合わせた活動に取り組み、身体・運動機能の低下予防（健康保持）を図ること。

<活動内容>

○農作業班

- ・第三大山荘の西側にある畑を利用して、ジャガイモ・インゲン豆・キュウリなど野菜の栽培を行い、作物の成長や収穫を通して、喜びや達成感を感じ農作業の楽しさを体験する。
- ・農閑期などは、畑や周辺環境の整備と併せて計画的に身体を動かす活動（歩行活動）を取り入れ、気分転換・運動機会を持つようにする。

○キャンドル作業班

- ・作業工程の細分化を図ることで利用者個々に適した作業・興味ある作業を提供する。
- ・販売活動を通じて活動意欲・達成感を感じられるように支援する。
- ・定期的に身体を動かす活動（歩行活動）を行い、気分転換・運動機会を持つようにする。

○健康2活動班

・歩行活動

メンバー個人の心身の健康保持を目的として、会話などを交えて楽しい雰囲気の中で活動を実施する（1時間～1時間半を目安とする）。雨天時には、他班と合同で近隣地域にドライブへ出掛け、気分転換の機会を設ける。

○フック作業

- ・あんだんてを中心とした全体作業として行う。
- ・個々のニーズ（体験作業として等）やペースに応じて取り組む。
- ・障害特性に合わせた作業ツールを活用する。

<総括>

●農作業

活動総実施回数 全45回 内ドライブ回数 4回

各月平均3回程度の活動が実施された。活動前半に農作業場での活動（草取り、石拾い、水やり）を行い、後半に歩行活動（白山神社まで）が実施された。

今年度上半期は環境整備（草刈り、柵の修繕等）に力を注ぎ、毎月1～3回程度畑の整備を実施。芝、樹木植樹（ツツジ、キンモクセイ）、緑のカーテン（朝顔）、各種花（ひまわり等）ベンチの設置を行い、農作業活動に加えてイキイキ活動や園芸クラブの参加を推進してきた。又、ブドウの木周辺にあった鉄パイ

ブも倒壊の危険性があった為、撤去し、作業場拡張に努めた。

下半期に入り、農作業場の拡張を経た（年度始めの規模より2、3倍）が、活動回数が減少。上半期が活動回数20回、下半期は22回となった。

作物として、上半期に新たな品目であるカボチャ、ナスの収穫が行われた。青梗菜等も種から栽培を行い、一時は収穫前まで成長を見たが、害虫の被害に逢い失敗し、後期の課題となった。

#### ●キャンドル作業

活動総実施回数 82回（昨年度比+5回）

月によって活動回数のバラつきは見られたものの、昨年度の総実施回数よりも5回上回ることができ、概ね定期的に活動の機会を提供できたように感じている。利用者個々の特性に合わせた作業内容を提供したり、利用者の状況に応じて作業内容の工夫を行う等、取り組む時間が楽しく充実したものとなるよう努めてきた。キャンドル販売を行う機会には、利用者も売り子として参加してもらうことで、販売の楽しさを味わい、また活動への意欲を高めることに繋がったのではないかと感じている。今後も、作業に取り組むことの楽しさを大切にしながら、充実した活動が提供できるよう努めていきたい。

平成25年度 キャンドル作業販売収益		
月日	販売内容	収益
8/3	四季の郷夏祭り	5,000円
11/3	西区ふれあい広場	7,750円
11/4	友愛広場	5,500円
11/23	四季の郷・秋祭り	6,050円
12/23	四季の郷・クリスマス会	3,800円
		総収益 28,100円

#### ●健康②

活動総実施回数 全101回（歩行91回、ドライブ10回）

1年間を通して、楽しく歩行を行う事が出来ていた。暑さや体力的に疲れの出る利用者もおり、体調面を考慮する利用者もいたが、暑さ・寒さに関係なく概ね楽しく歩行する事が出来ていた。

参加メンバーには、体重の安定が測れている利用者もおり、健康面でも良い影響が出ている。また、情緒面で配慮が必要な利用者は職員と手を繋ぎ、一緒に歩行するなどの対応を行ってきた。また、今年度から新しくメンバーとして参加している利用者もいたが、問題なく歩行活動に参加出来ていた。今後は、参加メンバーのニーズに合わせた活動内容・体調面・情緒面に配慮した活動を継続して行っていく。

#### ●フック作業

あんだんて所属メンバーが中心となり作業を進めてきたが、それ以外にも生活介護利用者やショートステイ利用者も参加して活動していた。活動総実施回数：70回

納品については、およそ2か月に1回のペースで、業者に製品を納めることができた。利用者の参加状況については、概ね参加を促せば、参加する事ができている。事実、不参加の主な理由として、他の課業と重なってしまったり、通院や人数調整で参加できなかつたり、実習生との活動に夢中だったり、本人の参加意欲以外の諸要因が挙げられる。少ないながら参加を拒否する場合でも、居室にて支援員とともに活動に取り組む場合があった。

また、メンバー以外の利用者やSSの利用者の参加も多くあり、これが定期的な納品に少なからず貢献した。ただし、参加者が多くなればなるほど、参加者への資材の補充作業の伝達が煩雑になるので、ここをいかにスムーズに行うかが今後の課題になると考える。

#### ●キャンドル作業

活動総実施回数 82回（昨年度比+5回）

月によって活動回数のバラつきは見られたものの、昨年度の総実施回数よりも5回上回ることができ、概ね定期的に活動の機会を提供できた。利用者個々の特性に合わせた作業内容を提供したり、利用者の状況に応じて作業内容の工夫を行う等、取り組む時間が楽しく充実したものとなるよう努めてきた。キャンドル販売を行う機会には、利用者も売り子として参加してもらうことで、販売の楽しさを味わい、また活動への意欲を高めることに繋がったのではないかと感じている。今後も、作業に取り組むことの

楽しさを大切にしながら、充実した活動が提供できるよう努めていきたい。

平成 25 年度 キャンドル作業販売収益		
月日	販売内容	収 益
8/3	四季の郷夏祭り	5,000 円
11/3	西区ふれあい広場	7,750 円
11/4	友愛広場	5,500 円
11/23	四季の郷・秋祭り	6,050 円
12/23	四季の郷・クリスマス会	3,800 円
		総収益 28,100 円

### ●グループ活動

利用者の好みや要望に沿った活動内容を提供し、利用者が主体となって楽しめる場所を提供することで、活動意欲に繋げていけるように支援していくことができた。

実施日	活動場所	利用者	職員	経 費
7/24	名古屋港水族館	5	3	14,400 円
11/8	大井川鉄道	5	3	28,560 円
2/13	安城産業文化公園 デンパーク	4	2	12,000 円
合計 3 回				経費合計： 54,960 円

### 機能・健康・体力維持、リハビリ活動、体験活動グループ (チャキチャキ)

#### <活動方針>

- メンバー一人ひとりに合わせた活動を行っていくこと。
- メンバー個々のニーズ・個性に合わせたプログラムを通じて、機能・健康・体力維持を目指すこと。
- 様々な体験活動（地域との交流・社会参加）を通じて、生活の楽しみを増やし生活の幅を広げること。
- 活動を通じて、心身の安定を図ること。

#### <活動内容>

##### 1) 機能維持プログラム

活動時間	13:40～15:30 ※3月から試行的に10:00～11:30の時間帯も実施。						
活動メンバー	4名						
担当職員	職員1名						
晴天時の活動	屋外歩行(公用車で花川運動公園、墓地公園まで行き、公園内を歩行。)						
雨天時の活動	ドライブ、店内歩行(カインズモール他)						
実績報告	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
	9回	13回	12回	14回	12回	10回	6回
	11月	12月	1月	2月	3月		合計
	10回	10回	10回	10回	8回		124回

##### 2) 健康維持①プログラム

活動時間	10:00～11:30						
活動メンバー	8名						
担当職員	職員1名または2名						
晴天時の活動	2～3班に分かれて、ヴィラ東山苑付近までの往復歩行						
雨天時の活動	ドライブ						
実績報告	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
	7回	12回	10回	16回	10回	9回	7回
	11月	12月	1月	2月	3月		合計
	11回	3回	5回	2回	6回		104回

##### 3) 体力維持プログラム

活動時間	10:00～11:30						
活動メンバー	5名						
担当職員	職員1名						
晴天時の活動	公園や浜名湖周遊の自転車道などを利用して、散歩や運動を自由に行う。						
雨天時の活動	ドライブ						
実績報告	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
	10回	10回	10回	14回	10回	10回	10回
	11月	12月	1月	2月	3月		合計
	9回	8回	8回	5回	9回		113回

<総括>

いずれの活動班においても怪我をすることなく精力的に活動を行うことができています。また、活動ごとに設けられたねらい（発散や機能維持など）についても利用者ひとりひとりのニーズに沿って設定されており、その希望に沿った活動の提供を行うことが出来た。

反省としては、利用者の高齢に伴い心身の能力が低下していく中で、利用者個人の、ニーズの変化への対応や、そういった利用者のための活動内容を検討していく必要性を感じた。また、木曜日がクラブ活動の日となったこともあり、活動によっては前年度よりも大きく活動回数が減ってしまうことがあった。

●機能活動

年間を通してメンバー全員が概ね安定して歩行を行う事ができた。季節の変わり目などに情緒面が崩れることもあったが利用者も頑張る事が出来ていた。雨天時もドライブだけではなく歩行機会を設けることができた。また、活動時間を午前に設ける取り組みは歩行距離を延ばすことができ結果は良好となっている。

●健康①活動

年間を通して大きな事故、怪我等なく活動する事ができた。上半期は、職員2名体制での活動であったため、たくさんの利用者が参加する事が出来、とても充実していた。下半期は職員不足もあつてか活動回数が減少しているが、活動があった際にそれぞれの利用者のペースに合わせた歩行を行う事が出来ていた。

●体力活動

- ・利用者の参加状況は良好で全体的に表情よく楽しむことができています。
- ・体力活動所属以外の利用者の参加が見られる。
- ・「日本全国うまいものツアー7」は八代（熊本）、阿久根（鹿児島）、薩摩川内（鹿児島）、鹿児島市の4か所の名産（菓子）を取り寄せ、所属利用者に提供する。

●グループ活動

グループ活動では、全5回の実施予定ではあったが、職員人数の減少や、悪天候より3回のグループ活動を中止しており、計2回の活動にとどまっている。

主な活動としては参加利用者が楽しめるもの「食、入浴、散歩、ドライブ」をメインとした内容を計画し提供している。参加した利用者は大いに楽しむことができた様子である。しかし、やはり活動回数が乏しくなかには参加できない利用者もおり、やや残念な形となってしまった。

月 日	内 容	利用者	職員	金 額
5/21	浜松フルーツパーク	6名	4名	11,827円
10/16	【悪天候中止】	5名	3名	
1/20	簡保の宿三ヶ日奥浜名湖 道の駅	3名	2名	11,350円
		合計3回	経費合計	29,335円



## (7) クラブ活動支援

### 運動クラブ

#### <支援目標>

- 野外などで身体を動かし、体力づくり、健康維持を図る。
- 季節に応じたスポーツ活動を行うこと。

#### <活動内容> 四季の郷周辺散策 ドライブ散歩（公園）

#### <総括>

運動クラブは、体力作り、健康維持を図る為に施設周辺を散策したり、時には車を利用しての公園散策を実施した。自発的参加が難しいメンバーに参加を促してきたので、参加メンバーの情緒の安定にもつながったのではないかとと思われる。

今年度は歩行活動と競技練習のみに重点を置いた為、季節に応じたスポーツ活動を実施することができなかったことが反省として挙げられる。来年度はボール遊びやバトミントン等様々な活動を取り入れていきたい。

### 競技クラブ

#### <支援目標>

- 各種競技大会に参加し、日頃の練習成果を発揮するとともに、他の施設利用者との交流を図る。

#### <活動内容>

- 9月わかふじスポーツ大会参加（フライングディスク競技）（男性1名、女性3名参加）  
フライングディスク（アキュラシー）  
金メダル（1位）1名 銀メダル（2位）3名 銅メダル（3位）1名
- 10月オレンジマラソン大会（男性3名・女性1名）
- 園内でのフライングディスク競技練習
- 園外でのオレンジマラソン大会練習

#### <総括>

競技クラブでは、大会に向けての練習を実施し、わかふじスポーツ大会でのフライングディスク競技で好成績を収めることができました。また、オレンジマラソン大会では最後まで諦めることなく、全員が完走することができ、本人達なりの健闘を見せていた。競技大会に参加した際、競技が終わった後に他施設の利用者の方とお互いの頑張りを讃えあう姿が見られた。

### 音楽クラブ

#### <活動方針>

- 音楽を楽しむ事により、情緒の安定を図ること。
- 音楽を通して、楽しみを発見すること。
- 音楽を通して、協調性を養うこと。

#### <活動内容>

- 季節にあった歌を歌ったり、鈴・タンバリン・太鼓などの簡単な楽器を使い、合奏する。
- 体操や手遊び等を行い、身体全体を使って表現する。
- 敬老の日が高齢者施設へ訪問し、演奏を披露したり（9月16日）、クリスマス会で日頃の成果を発表する（12月23日）。

#### <総括>

活動回数：56回

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
3回	7回	5回	1回	13回	7回	3回	4回	3回	4回	3回	2回

今年度前半は、園外行事（敬老会の日訪問）に向けて『世界に一つだけの花』『ふるさと』『きよしのズンドコ節』を全体で集中的に練習した。又、歌を歌わない利用者もタンバリンや鈴、創作楽器（マラカス）などの楽器を手に持ち、一生懸命演奏しそれぞれの方法で音楽にかかわる機会とする事が出来た。

また、後半には Ipad のカラオケ機能を活用、利用者の嗜好に沿った歌謡曲を楽しめる様工夫し、利用者の歌いたい想いに応じる“個性に応じた”音楽クラブとして活動を展開する事ができ、新たな楽しみを発見する場とする事ができた。

一方で、個性を重視した活動に重きを置いた事により、それらカラオケに傾倒した活動内容ともなり、皆で一斉に楽しむ場面が少なかった印象を受ける。これからは、全体としてバランスを保ち、個性を重視しつつ、誰もがより楽しめる計画的な運営を行っていききたい。

## 園芸クラブ

### <活動方針>

- 草花を育てることを通して、季節感・喜び・楽しみを得ること。
- 草花を育てることを通して、心身の健康維持を図ること。
- 活動を通して、地域との交流を図ること。

### <活動内容>

- 四季の郷の中庭の芝生・花壇の整備と草花の栽培管理。
- 行事を利用して活動を展開。
- 草花を利用した楽しみ方を発見していく。
- 自然の観察・季節に応じた草花を見つけに散策へ出掛ける。
- 施設内にて、栽培している草花の紹介。

### <実施回数>

4月・・・0回    5月・・・2回    6月・・・1回    7月・・・4回    8月・・・1回  
9月・・・1回    10月・・・0回    11月・・・2回    12月・・・1回    1月・・・1回  
2月・・・2回    3月・・・3回

### <総括>

活動内容としては、例年同様年間を通して花壇の整備、草花の栽培・管理を行った。活動回数はそれほど多くはなかったが、利用者が自然に触れることのできる活動に取り組めたのではないかと感じている。毎年恒例の夏祭りでのコスモスの苗の配布は、成長不良により実施することができなかった。一方で、秋祭りに向けて栽培したコスモスは、立派な花を咲かせ、雰囲気作りの一つとして四季の郷の中庭を鮮やかに彩ってくれた。

今年度は新たな取り組みとして、草花がより身近なものに感じられるようにと、毎月の代表的な花を掲示物として作成し、紹介を行った。また、天候に左右されずに活動を行えるように、利用者の創造力を活かせるようにとの発想から、フラワーアレンジメントを行った。自分の思うままに制作していくことで、個性に溢れた作品作りに取り組むことができた。その他に、体験クラブと合同でさつまいもとミニひまわりの栽培も行った。

年間を通して草花の栽培を行う為には、活動内容の工夫と草花の計画的な栽培方法の確立の必要性を感じた。今年度の反省を活かし、今後も充実した活動内容を提供していきたい。

## 絵画クラブ

### <活動方針>

- 絵画や造形（工芸、陶芸）を通して個々の得意とする分野で活動する。
- 余暇を有意義に過すこと。
- 愛護ギャラリーや、障害者芸術祭などのコンクールに作品を出展すること。

### <活動内容>

- 絵画・紙工芸や陶芸、木工を実施していく。
- 活動時間以外の余暇時間などを有効に活用し個々の得意なものを活かして作品とする。
- 作品発表の機会の充実
  - ・『愛護ギャラリー展』、『障害者芸術祭』、『ベル21 ほのぼの招待会』『その他の作品展』への作品の出展
  - ・定期的に園内に展示する。

#### <総括>

今年度は職員の人数も増加して前年度にあまり出来なかった絵画の入れ替えが適度に行う事が出来た。そのことで四季の郷の雰囲気も良い感じがうかがえた。その半面で外へ出掛けての絵画クラブの実施という面では未実施という結果となってしまっている。来年度は、職員2名体制の時にに関して定期で実施できるように計画を組んでいきたいと思えます。障害者芸術祭に関しては、今年度も当施設の秋祭りと重なってしまい、参加・見学を実施する事が出来ませんでした。愛護ギャラリーへの出展に関しては、毎年、同じくらいの作品数を出展する事が出来ていますが、年々、絵画の技術の面で四季の郷のレベルが下がっている気も感じられ、日々の指導の仕方とも考えていく必要があります。作品の良し悪しは、それを入れる額で決まると言っても良いくらいとも言われるので絵画部材の管理にも力を入れていけたらと思えます。

#### 家庭科クラブ

##### <活動方針>

- おやつ作りや料理作りを通し、季節感を感じる事。
- おやつ作りや料理作りを通し、楽しみを感じる事。
- ミシン縫いや手縫いなどを行うことで、作品作りなどを楽しむ事。

##### <活動内容>

- 季節に合ったおやつ作りや料理づくりを行なう。
- おやつ作りや料理作り、裁縫に必要な材料は、利用者と共に購入していく。
- 年に一度は、公民館を借りて、季節に合った料理作りを行う。
- ミシン縫いや手縫いなどで、作品作りに取り組む。

#### <総括>

今年度も、おやつ作りや料理づくり、裁縫の活動を行った。年度始めに、参加を希望する利用者を集め、お菓子や料理作りの本を見ながら利用者の希望を聞き、おやつ作りや料理作りを通して季節感を感じる事が出来るように1年間の活動計画を立てた。裁縫は、直接店に購入しに行き、実際に見て作るものを決めた。おやつ作りは、出来る限り、利用者に行なってもらうような見守り・支援を行なうことで、回数を重ねるにつれ、自然と役割分担が出来、利用者自らが進んで活動することが出来た。それに伴い、おやつ作りの楽しさや興味が増していったように感じる。今年度も、自分達が作った物を秋祭りで販売し、完売した事で、より自信にも繋がった様に思う。ただ、今回は、職員の人数の関係で、活動回数が少なくなってしまったのが残念であった。

公民館を利用した調理実習は、実施を予定していたが、職員人数の関係上、実施することが出来なかった。

裁縫は、作品が出来、秋祭りや愛護ギャラリー等の作品展に展示した。実際に完成した物を見て、自信を持ち、次への意欲に繋がった。自分の物も作れ、実際に使用した事も良かったと思う。今年度も、作った作品を販売することができた。

毎月の活動を募集形式にしている。募集の紙を作成したことで、年々利用者の参加が増えている。

#### 元気クラブ

##### <活動方針>

- 散歩を通じて季節を感じる事。
- 散歩をする事で楽しみを感じる事。
- 園外に行く事で、心身共にリフレッシュすること。

##### <活動内容>

- 車で公園などに行き、散歩を行う。
- 買い物に行く目的を持ち、散歩を行う。

#### <総括>

毎週活動を行う事ができた。少人数ずつを数回に分けて散歩を行い、散歩を通じて季節を感じたり楽しみを感じる事ができ、心身ともにリフレッシュする事ができるように行った。初めは、園から出て散歩に行

く事が多かったが、車で公園まで行き散歩をする事ができるようになったため活動の場が広がった。参加した利用者も、各々に、散歩している事を楽しんでいる様子がうかがえ。買い物に行く事は、今年度も、達成されなかったが、毎週活動がある為、グループ分けや取り組みができる活動にしていきたい。

#### (8) 年間行事

四季の郷での生活が単調にならず、潤いのある生活を送ることができるように、年間を通して様々な行事を企画してきた。利用者の状態も様々なので、より個人の希望や要望を生かせるように、全体での行事以外にも小グループでの外出や活動ができるような配慮をした。

平成 25 年度は、以下のような行事を行った。

##### 【全体行事】

###### ①春の親子遠足…6月2日（日）

保護者との交流も目的に、豊橋総合動植物公園へ出掛けた。保護者ボラも含め、122名が参加した。

###### ②夏祭り…8月3日（土）

今年度もヴィラ東山苑（老人施設）との共催で開催した。今回で18回目であり、地域の夏祭りとして定着してきている。多くのボランティアや保護者会の協力もあった。

###### ③ 秋祭り…11月23日（土）

保護者会主催の「バザー」と同時に実施。地元の自治会長さんに一日施設長を委嘱するなど、地域住民の皆さんとの交流を深めた。

###### ④ クリスマス会…12月23日（月）

気賀高校吹奏楽部の演奏会など、保護者や関係者の皆さんと、楽しい一日を過ごした。

##### 【他団体主催行事】

今年度も、県知的障害者福祉協会や社協主催等の行事に積極的に参加をした。主な行事は以下の通り。

- ・えんしんファミリー映画会（8月24日／遠州信用金庫）
- ・わかふじスポーツ大会（9月1日“フライングディスクの部”／県障害者スポーツ協会）
- ・オレンジマラソン大会（10月19日／県障害者スポーツ協会）
- ・西区ふれあい広場（11月3日／市社協）
- ・友愛広場（11月4日／市社協）
- ・ミュージカル招待（12月5日／ヤマハ労連）
- ・愛護ギャラリー展見学（12月18日／県知協）等に参加した。

##### 【グループ活動】

今年度も、課業班活動の中に組み入れ実施した。所属利用者人数に応じた予算配分と実施枠制をとって実施したが、悪天候や職員退職に伴う職員調整ができなかったりして実施数が例年より少なかった。実施内容は、前項の各課業班報告の通り。

##### 【その他の行事等】

- ① 誕生会…毎月実施。レクリエーションを実施したり、誕生者にケーキ選びをしてもらうなど、工夫した。
- ② 季節行事…花見、端午の節句、七夕、お月見、新年会、節分、ひな祭り等の伝統的な行事も大切に実施した。
- ③ 買い物外出… 土・日曜日を利用して、買い物外出を実施したが、職員人数の関係で計画的に実施できなかった。
- ④ 一泊外出… 利用者・保護者の要望（経費全額利用者負担）を元に、計6グループ（内1グループは日帰り）で実施した。実施内容は以下の通り。

月	外出班	利用者／職員人数	行き先と利用者1人あたりの金額
6	A班一泊	6/25～26	<富士西湖・静岡空港> 16,120円
7	B班一泊	7/25～26	<リトルワールド・明治村> 21,083円
9	C班一泊	9/19～20	<掛川・富士方面> 15,280円
10	D班一泊	10/24～25	<静岡・焼津方面> 20,534円

11	E班日帰り	11/29	<名古屋地球博公園>	4,935円
1	F班一泊	1/28~29	<浜名湖・渥美半島>	19,400円
2	G班一泊	2/25~26	<伊勢・鳥羽>	21,300円

### (9) 利用者自治会活動

今年度も「私たちはこんな暮らしがしたい」の実現に向けて、自ら選択・意思表示できる機会を大切にしました。

選択の機会では利用者へ分かり易く選択が行えるように、イラスト/画像/実物を交えながら説明を行い、自治会で決定した内容を掲示してお知らせする事で、利用者が知る機会を作る事に配慮した。

活動の成果として、皆さんが自治会活動の内容について、活発に意見を交える事や役員以外からの活動に関するお話しが聞かれる機会が増えた。

実施内容は以下の通り。

月	内容	参加者	備考
4	自治会説明会	希望者	新年度役員募集等
5	役員会	役員	会長・副会長の選出 行事/選択食/変わり湯の要望等
6	役員会	役員	今年度活動内容の決定・衆議院選挙の告知 セレクトドリンク/変わり湯の要望等
7	役員会	役員	季節活動の内容検討 セレクトドリンク/変わり湯の要望等
8	役員会	役員	セレクトドリンク/変わり湯の要望等 切手/ベルマーク活動
	季節活動	利用者全員	花火
9	役員会/親睦会	役員	セレクトドリンク/変わり湯の要望等
10	役員会	役員	行事/セレクトドリンク/変わり湯の要望等
11	役員会	役員	行事/セレクトドリンク/変わり湯の要望等
12	役員会	役員	選択食/セレクトドリンク/変わり湯の要望等
1	役員会	役員	セレクトドリンク/変わり湯の要望等
	初詣	役員代表者	利用者代表として初詣へ
2	役員会	役員	自治会総会の打ち合わせ 選択食/変わり湯の要望等
3	自治会総会	利用者全員	一年間の活動報告・次年度自治会役員募集

### 3. 地域・防災

#### (1) 在宅障害者の受け入れ

今年度も、積極的に短期入所（ショートステイ）及び日中一時支援事業利用者の受け入れを行った。それぞれの事業報告については別紙。

#### (2) ボランティアの受け入れ

今年度もボランティア担当職員を中心に、ボランティアの受け入れを積極的に進めてきた。地域との“橋渡し”機能を持つボランティアの受け入れは、利用者の生活・支援が地域に広がる機会となっている。

秋祭り等の行事のお手伝いをお願いするボランティア募集については、事前にビラやポスターを大学等に送付して情宣してきた。毎回、多くのボランティアの参加が見られ、事後にはお礼文と共に活動の写真を送付するなどの取り組みを行ってきたが、その後の関わりやつながりを維持していくことに難しさを感じた。

#### (3) 実習生の受け入れ

今年度も、積極的に実習生の受け入れを行ってきた。受け入れの実績は以下の通り。

実習生受け入れ実績（平成25年4月～平成26年3月/実習受け入れ順）

所属等	目的	実習期間	実習日数	受入人数
静岡県立大学短期大学部	保育実習	6月3日～6月15日	12	2
浜松学院大学	保育実習	7月8日～7月20日	12	2
聖心女子専門学校	保育実習	7月23日～8月3日	11	2
静岡県立大学短期大学部	社会福祉士資格取得	8月8日～8月29日	18	2
浜松学院大学短期大学部	保育実習	9月2日～9月14日	12	1
浜松学院大学短期大学部	保育実習	9月16日～9月28日	12	2
静岡県立大学短期大学部	保育実習	10月7日～10月19日	12	2
東海大学短期大学部	教員・保育士免許状取得	11月11日～11月22日	12	2
東海大学短期大学部	教員・保育士免許状取得	11月25日～12月6日	12	2
東海福祉専門学校	希望実習	1月20日～1月30日	10	1
浜松学院大学短期大学部	保育実習	2月12日～2月25日	12	2
静岡県立大学短期大学部	社会福祉士資格取得	3月17日～3月22日	6	2
浜松医療福祉専門学校	体験実習(歯科衛生士)	5月～11月の間(1日ずつ)	計19	計39
実習受け入れのべ日数			160日	
実習受け入れのべ人数			61名	

#### (4) 防災訓練等

今年度も、万が一に備えて毎月計画的に防災訓練を実施した。その総括は以下の通りである。

実施月日	訓練実施内容
4/10	日中の突発的地震を想定しての避難訓練を実施
5/15	平日の日中火災を想定しての避難訓練を実施。消火器による消火訓練は雨天のため中止。
6/12	法人合同防災訓練を実施。大規模地震想定。四季の郷では避難所開設、運営訓練を実施。
7/12	夜間火災を想定しての避難訓練を実施 職員非常招集訓練を実施
8/7	平日の日中火災を想定しての避難訓練を実施
9/3	東海地震注意情報・警戒宣言発令を想定しての総合防災訓練を実施 非常食の喫食と防災機器の実技訓練を実施
10/9	平日の日中火災を想定しての抜き打ち避難訓練。
11/1	「社会福祉入所施設防災の日」として、総合防災訓練を実施 地震及び火災発生を想定しての避難訓練・情報伝達訓練・応急対策訓練を実施
12/27	日中火災を想定して、抜き打ち避難訓練を実施
1/10	夜間火災を想定しての避難訓練
2/12	防災講習会を開催。AED操作と心肺蘇生法の実技訓練を実施。
3/21	日中火災を想定して、抜き打ち避難訓練を実施

#### 4. 保護者会との連携

今年度も、保護者会担当職員を2名選任し、保護者会関連の会議等に出席して、施設側との連絡及び調整

の役割を果たしてきた。今年度も、利用者と保護者が良好な家族関係を維持してもらえるようにとの思いから、家庭実習を夏季と冬季の2回実施した。

(1) 家庭実習の実施

家庭実習の実施にあたっては、今年度もあらかじめ文書で保護者に通知し、都合を確認した上で受け入れて頂いた。帰省ができて、年々短期間になっていることや帰省できない人が少しずつ増加している傾向が見られた。家庭実習で利用者が帰宅する際には、各ケース担当職員が担当利用者の近況を記入した「家庭実習記録表」を渡して、保護者に施設生活の状況を知っていただくとともに、保護者には、その記録表に家庭での様子や要望等を記入・提出していただき、保護者との連携を図るようにしてきた。尚、帰省ができなかった利用者の保護者には、家庭実習記録表を送付した。

更に、施設全体のことを保護者の皆さんに知っていただくために、施設内新聞「さんさんタイムズ」を発行した。

家庭実習実施状況

- 夏季家庭実習 8月11日(日)～8月15日(木) 5日間 利用者27名帰省
- 冬季家庭実習 12月29日(日)～1月5日(日) 8日間 利用者28名帰省

(2) 保護者会行事への参加・協力

今年度の四季の郷年間行事の中で、保護者会との協力によって実施した行事は以下の通り。

- 春の親子遠足（保護者会協力行事） … 6月2日（日） 参加保護者35名
- 秋祭り・バザー（保護者会共催行事） … 11月23日（土） 参加保護者24名
- クリスマス会（保護者会協力行事） … 12月23日（月） 参加保護者31名